

〈サーキュラーエコノミーとは〉

新しい経済の形としてサーキュラーエコノミーという考え方が広がっています。サーキュラーエコノミーは、EU が 2015 年に政策パッケージを公表したことで世界に広まった概念で、和訳して「循環経済」とも言います。製品、素材、資源の価値を可能な限り長く保全・維持し、廃棄物の発生を最小限化する経済システムを意味し、これまでの一方通行でモノを使う「直線経済」からの脱却を目指すものです。

◎サーキュラーエコノミーの 3 つの原則とビジョン

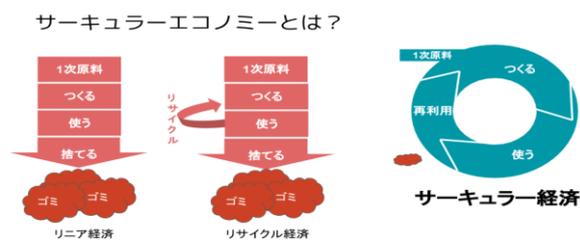
推進機関として有名なエレン・マッカーサー財団はサーキュラーエコノミーについて 3 つの原則を上げています。

1. 廃棄物や汚染を生み出さない設計を行う。
2. 製品や原材料を使い続ける。
3. 自然のシステムを再生する。

これにより、経済成長と人間の幸せの向上を実現しながら、資源使用及び自然環境影響を切り離す経済システムを目指していきます。

◎サーキュラーエコノミーと 3R、リニア・エコノミー(直線経済)との違い

サーキュラーエコノミーは従来の経済システムだけでなく、日本で浸透している「Reduce(ごみを減らす)」「Reuse(再利用する)」「Recycle(資源として再活用する)」による 3R とも発想が異なります。従来の経済システムでは、原料、生産、消費、廃棄という一方通行の直線で図式化される「リニア(直線型)エコノミー」の仕組みが浸透していました。3R で知られるリサイクリングエコノミーの考えも、原料から廃棄物までの直線的な流れが含まれており、廃棄物の発生を前提としています。しかしサーキュラーエコノミーの発想では、従来廃棄されていたものを新たに原料として採用します。3 原則にもある通り、廃棄物を出さずに循環システムが回る点で、3R やリニア・エコノミーと異なります。



◎ポリ袋メーカーの取り組み

2021 年 3 月、プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律案が閣議決定されました。この取り組みに先進的な欧州に比べ、遅れを取っていた日本も国を挙げて取り組みを促進するための措置となります。ポリ袋メーカーでもここ数年で再生原料を使った製品が増えてきており、クリーン・アシストも再生原料使用のゴミ袋を販売しております。大手ポリ袋メーカーでは、廃プラスチックリサイクル処理に携わる会社と提携して、両社が有するプラスチックリサイクル、ポリ袋製造技術を活用したサーキュラーエコノミー事業構築を進めている事例もあるように、避けて通ることのできない、SDGs の実現にも繋がる課題となっております。